

## 2021年12月実績概要（メモ）

（2022. 1. 28）

主要石化製品の生産は、内需主導で多くが前年を上回り、エチレンの年間生産も2019年水準に近づく。

## 1. 生産動向

イ) エチレン 576,300トン

前月比 +5.7% (+31,300トン)

前年同月比 +7.5% (+40,000トン)

| 生産増減に係る諸要因 | <前月比>   | <前年同月比> |
|------------|---------|---------|
| 日数増減       | + 3.3 % | —       |
| 定修要因等      | —       | + 7.8 % |
| 能力増減       | —       | —       |
| 稼働率変動      | + 2.4 % | ▲ 0.3 % |
| 生産増減率      | + 5.7 % | + 7.5 % |

稼働プラントの実質稼働率試算：前月95.1%\* → 当月97.3% ← 前年同月97.6%

定修プラント：前月 なし → 当月 なし ← 前年同月 なし

2021年（暦年）生産量6,332.6千トン、前年比+6.6%、2019年対比▲1.3%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数増加や定修規模差等から、LDPE、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EG、AN、SBR、BR、トルエン、キシレンなどの14品目がプラス。HDPE、PS、EOの3品目はマイナスとなった。

前年比では、稼働率要因や定修規模差等からLDPE、PS、塩ビ樹脂、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの11品目がプラス。SM、EGなどの6品目はマイナスとなった。

## 2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、日数の増加とともに定修規模差や稼働率要因からLDPE、PPはプラス。HDPE、PSは稼働率要因等からマイナスになった。

前年比では、主に稼働率要因からLDPE、PSはプラス。HDPE、PPは定修規模差他から若干のマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

資源価格の高騰や円安に伴い、いわゆる企業物価指数の上昇が続いており、中間財、最終製品への波及が大きくなっている。汎用樹脂でも、原油、ナフサ価格の上昇に伴う出荷への影響がみられてきた中、当月は年末休暇による顧客の稼働日数の減少もあり、LDPE、HDPE、PSはマイナス。PPは輸送機械関連の減産もやや緩和されつつあり、前月並みの出荷に落ち着いた。

前年比は、LDPE、PP、PSでプラス。HDPEは前年並みとなった。

分野別の出荷状況では、これまで、前年に対し、フィルム等包装関連需要の増加が見られてきた。

当月はLDPE、PSで引き続きフィルム分野、包装用の出荷増加が続いた。他方、HDPE、PPでは射出成形分野の増加幅がやや大きくなった。

ハ) 輸出

前月比では、中国におけるゼロコロナ政策に伴う人流制限、物流面への影響に加えて、原料コストに対する域内の誘導品市況の改善が進んでいないこともあり、LDPE、HDPE、PPでマイナス。PSのみはプラスとなった。

前年比でも、上記3樹脂では減少が続いている。PSは前月にやや減少が見られたが、当月はプラスに転じた。

ニ) 在庫

在庫量は、LDPE、HDPE、PP、PSで増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対して、LDPEは上昇、HDPE、PSは前月並み、PPは低下した。在庫水準としては、LDPE、HDPEはやや高め、PP、PSは適正範囲内となっている。

|      | 前月対比増減量<br>(単位:トン) | 季節調整済在庫率 (単位:ヶ月) |      |
|------|--------------------|------------------|------|
|      |                    | 11月末             | 12月末 |
| LDPE | +26,900            | 3.2              | 3.5  |
| HDPE | +10,400            | 3.3              | 3.3  |
| P P  | +11,600            | 3.2              | 3.0  |
| P S  | +3,900             | 1.6              | 1.6  |

以上

前月からの修正を\*で付記